9	尾北	扶桑町立柏森小学校	ミタク　ユリ 氏名　美　宅　有　里

分科会番号	１４	分科会名	特別支援教育　（　　）

研究題目

「互いを認め合い、友達とよりよく関わることのできる児童の育成をめざして」

研究要項

１　はじめに

本校では、現職教育の研究主題を「心豊かにつながり合う子どもの育成～『高め合う』授業を通して～」とし、本年度からテーマを新たに設定し、昨年度までの豊かな言語力でつながり合う学級づくりをさらに発展させ、「高め合う」ことを目指している。本校での授業における「高め合い」として、第一に「自分の考えをもたせること」、第二に「各々の考えを交流させること」、第三に「相手の意見でよいところはどこか、自分と違うところはどこかを探し、認めること」の三段階を踏まえることを大切にしている。

そこで、自閉症・情緒障がいの特別支援学級である本学級においての研究主題への迫り方を考えるために、本年度初めて担任する児童の様子を観察した。そこで見えてきたことが大きく分けて三つある。一つ目は、人とよりよい関係を保ちながらつながることを苦手としていることである。休み時間ごとにトラブルを繰り返し、目が離せない日々が続いていた。二つ目は、自分に自信がもてず、さまざまな活動への意欲が低いことである。特に学習への活動意欲が低く、集中力を持続させることが難しい。三つ目は、自分の考えをもつことを苦手としている、または、自分の考えを相手に押し付けることである。自分の思いを発信することができない児童がいる一方で、自分の思いを相手に押しつけようとする両極端の児童が存在する学級であった。これらは、一人一人の障がいや発達の特性が関わっており、画一的な指導では対応できない。しかし、同じ学級内で年齢や障がいの特性は違っても、一緒に過ごす仲間であり、互いに気持ちよく過ごすためには、ルールを守ることや相手の考えに耳を傾ける心をもつこと、互いを理解し合うことが大切である。また、「楽しい」「できた」という経験を積み重ねることがさまざまな活動意欲へとつながると考える。

このようなことから、将来地域社会の中で自立して生きていくために必要な「他者と協働する力」「自己を調整する力」を養うこと、一人一人が個性をもち、違った存在であることを知ること、そして皆の違いを認めた上で、互いに楽しく気持ちよく関わり合うことのできる児童の育成を目指して、研究主題を設定した。

２　研究のねらい・仮説

＜仮説１＞仲間とよりよい関係を築くための手立てやルールを教えることで、困ったときやパニックに陥ったときにも心を落ち着けて解決に向けて話し合い、一緒に心地よく過ごすことができるだろう。

＜仮説２＞児童の興味関心のあるものを把握し、それを取り入れた授業計画を立てることで、集中力を保ち続けながら意欲的に学ぶことができるだろう。

＜仮説３＞自分の考えをもつことを繰り返す、またはもてない場合は自分の考えに近いものを選ぶ活動を繰り返すことで、自分を表現する手段を獲得できるだろう。そして、互いの思いを聞き合う活動を繰り返し行うことで、多様な考えを知り、発表や意見を聞いてもらうことで自信をもつことができるだろう。

３　手立て

＜仮説１に対する手立て＞道徳や学級活動の時間、自立活動の授業の中では「人間関係の形成」「コミュニケーション」「心理的な安定」の項目を意識しながら、人と関わるときのルールやマナー、規範意識を学ぶ授業を行う。

＜仮説２に対する手立て＞学級の児童全員が絵本の読み聞かせが好きであり、集中して聞くことができるため、絵本を活用した授業を進める。

＜仮説３に対する手立て＞一斉授業の形態を取り入れ、自分の考えをもつ、手を挙げて起立して伝える、仲間の意見を聞く、反応するという授業規律の定着を図る。また、学習したことを発表会の形式で伝える機会を各学年で設定する。

４　研究の実践

（１）絵本（読み聞かせ）を活用した自立活動

本学級の児童に読書についてのアンケートを行ったところ、読書が好きな児童は１人、苦手としている児童は４人であった。しかし、読み聞かせは学級の全員が好きと答え、年度当初から皆が静かに集中して取り組める唯一の活動であった。そこで、絵本を活用した自立活動の授業を行うこととした。

①　絵本「ききみみずきん」を活用した聞くトレーニング

授業の導入で、絵本「ききみみずきん」の読み聞かせをし、聞くことでどのようなよいことがあったのか話の内容を確認した。聞くことで幸せになれたおじいさんのように、皆もよく聞くことでよいことがあることをおさえ、ききみみ名人になることを単元のゴールとして、授業を繰り返し行った。

話を聞くトレーニングとして、ソーシャルスキルトレーニング（以下ＳＳＴ）を取り入れた①おちたおちたゲーム、②リングタッチゲーム、③よく聞くカルタの三段階のレベルを用意した。ワークシートを作成し、学習のめあての確認や、それぞれのゲームを修行に見立て、クリアできたらごほうびシールをもらえるようにした。振り返りでは、「ききみみ名人になるために大切なこと」をまとめること、授業の中でききみみ名人だった人を選ぶことの二つの活動を取り入れた。児童の振り返りの中には、聞くために大切なポイントが書かれていた(資料１)。

【資料１　児童の振り返り】

ききみみ名人になるために大切なこと
・かんがえながらきく。
・おぼえながらきく。
・しせいよく、しずかにきく。
・ちゃんときく。かおをみる。
・しゅうちゅうする。

②　絵本「ふしぎなキャンディーやさん」を活用した授業

絵本に出てくるふしぎなキャンディーから発想を得て、個々の想像力を働かせて、自分の願いを込めたふしぎなキャンディーを考え、皆の前で伝え合う活動を取り入れた授業を行った。「自分の考えをもつこと」「自分の考えを言葉で伝えること」「仲間の考えを聞くこと」の３点を目標に、一人一人の児童のもつ特性を踏まえた手立てを考え、実践した(資料２)。

仮説を検証する手立てを授業のさまざまな場面で取り入れたことで、興味関心を保ちながら、集中して楽しく自分の考えを表現することができる単元となった。また、挙手発表することを好む児童が増え、仲間の意見を聞こうとする姿勢も身に付いてきた。一緒に学ぶことの楽しさを感じることができるようになってきたと考えられる。

【資料２　学習指導案の一部】

自立活動「ふしぎなキャンディーやさんをひらこう」学習指導案(第二時)

【資料】「ふしぎなキャンディーやさん」作：みやにしたつや

[単元目標]

１　ふしぎなキャンディーやさんの絵本を聞き、話の内容をつかむ。

〈目的意識・課題意識、知識・技能〉

２　話の内容を想起し、自分の願いを込めたキャンディーを考え発表する。〈思考・判断・表現〉

３　ふしぎなキャンディーやさんを開き、お店屋さんとお客さんのやり取りを学ぶ。

〈思考・判断・表現、協働解決〉

４　自分の考えたキャンディーをもとに、学校生活の中で自分を高める目標を立てる。

〈思考・判断・表現、協働解決〉

［本時のねらい］

○自分の願いを、ふしぎなキャンディーに込め、皆の前で分かりやすく発表することができる。

（人間関係の形成、コミュニケーション）

［本時の流れと指導方法の工夫］

１　前時までの活動を思い出せるよう、物語の内容や登場人物、キャンディーの特徴を確認する。

→　【手立て①】仲間と相談しながらキャンディーの特徴を、絵カードを使って整理する。

【手立て②】大型絵本を活用して答えを皆で確認できるようにする。

【手立て③】意見があるときは手を挙げて、返事をしてから答えを言うようにする。

２　あったらいいなと思うキャンディーを自分で考えて、書き出す。

→　【手立て①】分からないことがある時は、自分から手を挙げて聞くことを伝える。

【手立て③】一人一人の児童に合わせたワークシートを準備し、自分の考えをもてない児童には選択できるプリントを用意する。

３　自分のキャンディーを皆に宣伝し、聞いている人はほしいキャンディーを見つけながら聞く。

→　【手立て①】仲間の考えの中からよいところを見つけながら聞くことを促す。

【手立て③】話型の提示や話す聞く姿勢の意識づけを行う。

４　本時の学習を振り返る。

→　【手立て①】仲間の発表を聞いて一番欲しいキャンディーを選んで振り返りに記入できるようにする。

【手立て②】次時は絵本のようにお店屋さんを開いて楽しむことを伝える。

【手立て③】自分の考えをもつこと、自分の考えを言葉で伝えること、仲間の考えを聞くことの３観点で振り返る。

（２）道徳やＳＳＴ、ビジョントレーニングの継続

児童の様子を見ていると、一人一人の規範意識やルールへの認識が異なっていることが感じられた。これから大人になり、地域社会の中でよりよく生活していく上で、きまりを守ることはとても大切なことである。そこで、道徳やＳＳＴの授業を繰り返し、皆が気持ちよく過ごすために大切なことを確認し、学級のルールとしていった。

①　道徳「どうしてきまりがあるのかな？」をきっかけに

２年生の道徳の授業を学級全体で行い、どうして世の中にはきまりがあるのか、きまりを守らないとどうなるのかを共に考えた。きまり（マナー）の大切さを捉えた上で、きまりを守ろうという意欲の定着を図った。授業で活用した絵は、交通ルールに関わるものが主であったが、それだけではなく、学校で皆と生活するときのきまり、スポーツをするときのルール、休日に買い物に行くときのマナーなど、さまざまな場で皆が安全に安心した生活を送ることができるようにきまり（マナー）があることをおさえた。そして、皆と気持ちよく生活するために大切なことを考え、「一緒に仲よく遊ぶ」「挨拶をする」「ルールを守る」「ありがとうと言う」「嫌なことを言わない」をクラスで大切にしたいこととしてまとめた（資料３）。

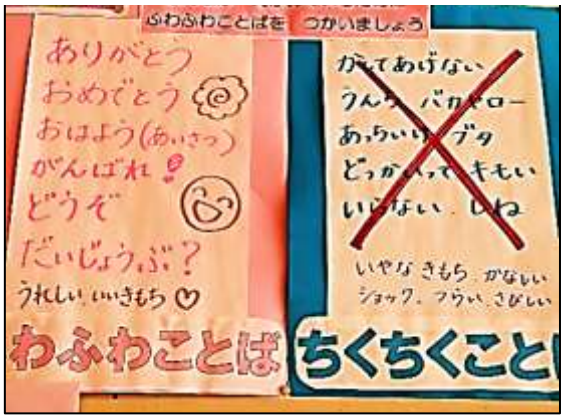
【資料３　どうしてきまりがあるのかな？】

②　ＳＳＴ「ふわふわ言葉とちくちく言葉」を意識して

日々、学級の中で相手に対する配慮に欠ける言葉が飛び交い、それがトラブルの元になっていたことが多かった。そこで、言葉のもつ意味や相手に感じさせる気持ちを想像する授業を行った。

ふわふわ言葉とちくちく言葉は背面に掲示し、いつでも振り返りができるようにした(資料４)。また、この授業で学んだことを日常生活や他の授業にもつなげ、自立活動の時間に「ふわふわ言葉を使って、ゲーム大会をしよう」や悔しいときやイライラしたときにちくちく言葉を違う言葉に切り替える「きりかえ言葉を使おう」などの授業を行った。

【資料４　ふわふわ言葉を使おう】



トラブルが起きた時に、繰り返し、ちくちく言葉の奥にある本当の気持ちを聞き出し、伝える練習を繰り返したことで、使う頻度が減っていった。また、仲間同士で「その言葉は言ってはいけないよ」「ごめんね」と声を掛け合うことができるようになっていった。その場面を見つけた際は、両者を褒め、よい関わりを促していった。言葉で解決できるようになってきたことで、トラブルは減っていった。

③　朝の会や自立活動で行うビジョントレーニング

ビジョントレーニングとは、両目の動きを改善し、よりよく機能させることで生活や学習上の問題を改善させたり、スキルアップさせたりするなどの目的として用いられるものである。朝の会や自立活動の時間の中で定期的にビジョントレーニングを取り入れた。児童は、ビジョントレーニングの時間を好んでいる子が多く、「今日はなにするのかな」とわくわくして意欲的に取り組めていた。見ることや聞くことに集中するトレーニングを繰り返すことで、教師の指示や話していることに意識を向けられる時間も増えていった。

（３）　学んだことを他学年に発表する活動

本学級は、さまざまな学年の児童が在籍しており、各学年の学習内容が違うため、学んだことを学級の仲間に発表する機会を設けることにした（資料５）。発表会を設けたことで、不安が強くなる児童もいたが、さまざまな実践を繰り返し行ってきているため、仲間の発表を聞くことや、自分だけの経験を伝えることに自信をもち始め、発表に向けての意欲が高まっていった。発表に向けて仲間や担任と一緒に考えながら課題に取り組み、完成したものを発表する際は、どの子も笑顔で達成感に満ちた表情を見せていた。

【資料５　発表会の主な内容】

１年生→こたえはなんでしょうクイズ大会、ものの名前（国語）のお店屋さんごっこなど
２年生→スイミー音読発表会（紙芝居)、お手紙音読発表会（音読劇）など
３年生→公共施設の見学新聞発表
５年生→福祉についての新聞発表（手話について）
６年生→修学旅行を紹介
全学年→運動会のダンス発表会、合唱発表、おすすめの本を紹介　など

２年生国語「スイミー音読発表会」では、単元のゴールを「皆の前で音読発表会を開こう」とし、単元全体の見通しをもって意欲的に学習に取り組めるようにした。教科書に書かれている言葉の意味を一つ一つ確認したり、挿絵を板書やワークシートに活用したりすることを、スイミーの気持ちや海の中の様子、小さな魚たちの気持ちを読み取る手立てとした。また、教科書の言葉から読み取ったスイミーの世界を言葉だけではなく絵で表現した。さらに、その世界を表現するために、音読の工夫を考えるという活動を主に行った（資料６）。

【資料６　児童の発言例】

「楽しくくらしていた」→仲よし。兄弟で楽しく遊んでいた。かくれんぼ。
にらめっこ。⇒**笑顔で楽しそうに読みたいね。**
「一口で」→まぐろはすごく大きい。スイミーたちはちっちゃい。→ミサイルみたいにつっこんできたらこわい。一瞬だね。⇒**「一口」を大きく読もう。**
「にじいろのゼリーのようなくらげ」→カラフル。ゼリーだから透き通っている。カツオノエボシみたいなかんじかな。→タブレットで調べてペアでイメージをもつ。⇒**きれいだな。感動。**
「みたこともない魚たち」→スイミーが元気をとりもどすくらい見ていてたのしくてわくわくする魚。→何色かな。にじ色かな。⇒**たのしく、わくわく、すごいなって気持ち。**

一つ一つの言葉に着目して、スイミーの海の中の世界の様子やそこで感じた気持ちを読み取った。そして、それぞれの場面での世界を読み取ったことを絵に表し、自分でとらえた世界を表現できるような音読の工夫を考え、練習を重ねた。家庭での音読の宿題の中でも、普段は◎○△の評価を、気持ちを込めて工夫できている場合は、花丸をつけてもらうことで、家庭でも意欲的に取り組むことができるようになっていった。普段は、自分のペースで学ぶことを好んでいたが、学級の仲間に聞いてもらうために、ペアで相談をしたり、練習をしたりする意欲的な姿が多く見られた。一人では気付かなかったことも一緒に話すことで世界が広がり、新たな発見をすることができたため一緒に学ぶ面白さを感じることができていた。

発表会当日は、大型テレビに児童が描いたスイミーの世界の絵を映し出し、それに合わせて音読発表会を行った。見ていた他学年の児童からは、「一緒に読むところが面白かった」「絵がきれいだった」「スイミーが怖いところを小さい声で読んでいてよかった」などの感想をもらい、達成感に満ちた表情で終えることができた。発表の機会を設けたことは、児童が意欲的に学習に取り組むだけでなく、自分の考えを伝えることへの自信をつけることにつながった。そして、次の「お手紙」の単元で行う音読劇にも意欲的に協力して学習へ取り組むことができた。

5　成果と今後の課題

（1）仮説１について

児童の一年間の様子を振り返ると、年度当初に比べると、日々の生活の中でのトラブルが激減し、トラブルが起きた時も教師を介して言葉で気持ちを伝えて解決することができるようになっていった。自分の考えや思いを言葉にして伝えることを繰り返したり、皆もそれを待って聞こうとしたりする意識が高まったことによって、安心して互いに表現し合えるようになってきた。

また、12 月に校内で行った人権週間の取組みの中で、学級の人権スローガンを皆で考える活動を行ったときも、全員で話し合った結果、「皆でルールをまもって、たのしくしあわせにすごす」に決まった。皆で楽しく幸せに過ごすためには、ルールを守ることが大切だと児童から意見が出てきたことから、心の中に規範意識をもって人と関わることが大切だと思える気持ちが育ってきたと考える。

（2）仮説２について

読み聞かせを授業に取り入れたことは、児童の学習意欲を高めることに有効であった。多動傾向のある児童には、導入の読み聞かせを通して心が落ち着いた状態で学習に取り組むことにつながった。自分の興味関心のあることには集中できるが、そうでないことにはやる気がもてなかった児童も、気持ちを授業へ向けて皆と一緒に学ぶことができるようになっていった。授業で活用した絵本をしばらく学級文庫として並べておくことで、休み時間や朝読書の時間に本を持ってきて、落ち着いて自ら読書をする習慣も身に付いてきた。朝の時間に落ち着いて過ごすことで、一日がスムーズに進められるようになっていった。聞く意識が高まったことで、知識を広げるだけではなく、集中して意欲的に物事に取り組めるようになっていったと考えられる。

（3）仮説３について

手を挙げて意見を発表することに苦手意識のある児童が学級の大半であったが、一斉授業の形式で発表する機会を取り入れ、繰り返し練習をしたことで、進んで手を挙げて話せるようになってきた。また、「話をしっかりと聞かないと活動が分からなくなってしまうから聞く」「皆の前で発表するために自分の考えをもつ」など、授業や活動への意識が高まってきた児童が増えた。各学年の発表会活動では、始めは消極的だった児童も、皆の聞く意識が高まってきたことで、安心して発表できるようになってきた。発表後に行ったアンケートでは、「また、皆の前で発表をしてみたい」「皆に聞いてもらってうれしかった」という前向きな意見が多く書かれていた。児童の自信にもつながっていったと感じる。

6　おわりに

今回、研究主題を設定し、研究を進めるにあたって、児童の苦手なことをどのように支援していくのかを軸として、手立てを考えて進めてきた。これは、児童の特性を克服するために必要な活動であり、互いが気持ちよく過ごすために学ばなければならないことである。しかし、苦手なことに目を向けるだけではなく、児童の

長所や得意なこと、興味関心のあることなどに目を向けて、さらに高めていけるような目標を定めることも大切だと感じた。そこから児童の自信につながったり、さまざまな活動への意欲が高まったり、よい循環が生まれたりすることもあった。これからも、自分に自信をもち、安心して学校や地域社会の中で他者と関わり合いながら生活できるように、さまざまな個性を持ち合わせた仲間を認め、寛容な心をもってよりよく関わろうとする気持ちや態度を育んでいきたい。また、日々変化する個々の児童の実態をよく把握し、それぞれに合った支援の仕方を考え、繰り返し実践していくことで、子どもたちの豊かな人生へとつなげていきたい。

7　参考文献等

北出勝也「発達の気になる子の学習運動が楽しくなるビジョントレーニング」ナツメ社 2021
腰川一惠、山口真由美「発達障害の子をサポートするソーシャルトレーニング実例集」
池田書店　2022
岡田智、愛下啓恵、安田悟「幼児と小学校低学年のソーシャルスキル」明治図書　2021
みやにしたつや「ふしぎなキャンディーやさん」金の星社　2007
いもとようこ「ききみみずきん」金の星社　2010